

日本語助動詞「タイ」と中国語助動詞“想”との 対訳研究

王精誠 崔曉静

1 はじめに

近年、コンピュータ処理可能なコーパスに基づいて言語研究を行う研究方は、新しい研究方法のひとつとして、多くの研究者に愛用されている。日中両言語の願望表現についての対照研究はいくつかあるが、しかし、コーパスという新しい研究方法を使用し、大量の文を整理、統計し、研究したものはまだ見られないようである。本研究は「中日対訳コーパス」を通して、文学作品における願望表現の日本語のタイと中国語の“想”を調査し、客観的に両言語の対応関係を考察しようとしたものである。

日中両言語の願望表現は日常生活でごく頻繁に用いられる表現でありながら、日本語学習者、とくに、初級の学習者は日本語の「タイ」を適切に使うことができない。たとえば、「一緒に行きたいですか」のような語用論的誤用と、「この点については、以下の文献が見られたい」、「私、あなたとお話がゆっくりしたかったの」のような文法的な誤用がある。これらの誤用を分析し、さらに、それを避けるためには、「タイ」の意味用法を徹底的に整理し、さらに、両言語のタイと“想”の対応関係を明らかにすることが必要になってくる。これが本研究の現実的な価値と言えよう。また、中日対訳の対応関係の研究によって、日本語の特徴をより深く認識することと、両言語の翻訳と日本語教育に資することもできると考えられる。

2 研究対象と研究方法

2.1 研究対象

本研究の研究対象は北京日本学研究中心が開発した「中日対訳コーパス」に収録された文章である。日本語の「タイ」と中国語の“想”の使用状況を調査し統計をとるために、日本語の文章と中国語の文章とを両方から分析した。調査する文学作品はすべて中国でも、日本でも有名で、当時社会に大きな影響力を与えた作品である。文学作品は以下のとおりである。

日本語の作品：

著者	出版年	日本語原文	中国語訳文
川端康成	1935 －1937	『雪国』	『雪国』Ⅰ
			『雪国』Ⅱ
			『雪国』Ⅲ
安部公房	1962	『砂の女』	『砂女』
村上春樹	1987	『ノルウェイの森』	『挪威的森林』
中根千枝	1967	『縦社会の人間関係』	『纵式社会的人际关系』

中国語の作品：

著者	出版年	中国語原文	日本語訳文
老舍	1936	『骆驼祥子』	『駱駝祥子』
湛容	1980	『人到中年』	『北京の女医』
			『人、中年に到るや』
张海迪	1999	『轮椅上的梦』	『車椅子の上の夢』
毛毛邓林	2004	『我的父亲邓小平』	『わが父・鄧小平』

以上の文学作品を選んだ理由は二つある。

一つは時代性である。言葉というものは時代の発展とともに変わっていくものであるから、言葉の対照を研究するには、同時代でないものを対照すると、意味のないことになってしまう。そのように考えて、以上の文学作品を

選んだ。日本語の『雪国』と中国語の『骆驼祥子』は第二次世界大戦より前の近代作品である。日本語の『砂の女』、『ノルウェイの森』、『縦社会の人間関係』と中国語の『人到中年』、『轮椅上的梦』、『我的父亲邓小平』は第二次世界大戦より後の現代作品である。

もう一つは文体である。両言語の対応関係を考察するには、調査の対象を選択する際に、文学作品の文体の性質を考えなければならない。「タイ」という願望表現は対話文に多く用いられるため、創作文の小説を四つ選ぶことにした。また、情報文も無視することはできないので、論説文も一つ選んだ。

2.2 研究方法

本研究は北京日本学研究中心が開発した「中日対訳コーパス」を使用したものである。「中日対訳コーパス」を使用して、助動詞としての日本語の「タイ」は日本語原文から検索した。また、中国語原文から“想”の使用状況を調査統計し、分析した。なお、本論文に出た数字はすべて延べ語数である。

日本語の四つの文学作品は、それぞれ、「タイ」、「タク」、「タカッ」、「タケレバ」、「タガル」、「タガリ」、「タガッ」、「タガラ」と「タガレバ」という九つの言葉をキーワードとして検索してみた。たとえば、タイ及び各活用形（タガルも含める）をキーワードとして、日本語の原文作品『雪国』『砂の女』『ノルウェイの森』『縦社会の人間関係』から検索した。そうすると、937個の文（述べ語数）が出てくる。それらの文から、「動詞連用形＋タイ」という基準にあう文だけを467個抽出した。抽出したあとで、タイに対応する中国語の言い方を見出す。日本語の願望表現のタイ文に対応する中国語の助動詞としての“想”の文によって、両者の対照研究を行うことが可能となってくる。

中国語の文学作品は、“想”だけをキーワードとして調査してみた。中国語原文の《骆驼祥子》《我的父亲邓小平》《轮椅上的梦》《人到中年》から検索してみる。その結果、中国語の“想”の意味は日本語のタイよりずっと多いため、“想”を含めた文が1284個（述べ語数）出てくる。そのときは、助動詞としての“想”の特徴を基準に助動詞としての特徴にあう“想”だけを463

個抽出した。助動詞としての“想”を抽出してから、日本語訳の作品から“想”と対応するものを見出す。両者の対応するものがわかると対照研究を行うことが可能となってくる。

3 調査結果およびその分析

3.1 “想”の日本語訳

“想”の日本語訳を考察するために、中国語の“想”をキーワードにし、中国語原文の《人到中年》（日本語の訳文は『北京の女医』『人、中年に到るや』と二つある）、《骆驼祥子》《轮椅上的梦》《我的父亲邓小平》の四つの文学作品から検索した。ただ、“想”をキーワードに検索すると、たくさんの文が出てくるが、そのとき、日本語の助動詞の「タイ」と対照するため、その中から、助動詞としての“想”を抽出しなければならない。抽出する基準は助動詞としての“想”の特徴である。

“想”をキーワードとして、以上の四つの文学作品を検索した結果、1284個の文が出てきたが、その中から、助動詞の“想”と認定できる文は463個ある。つまり、“想”の意味は四つあるが、願望か、希望を表す助動詞の“想”はその中の36%を占めるということがわかる。

さらに、363個の中国語の文の具体的な日本語訳の統計は次の表1のとおりである。

表 1

	人到中年	轮椅上的梦	骆驼祥子	我的父亲邓小平	総計
助動詞なし	19	65	56	22	162
タイ	22	79	35	9	145
未然形+ヨウ	21	31	58	20	130
(ナク) テハ	2		3		5
ナイカナ	1				1
ツモリ	1	3	3	1	8
基本形+ヨウ	1				1

ナケレバ	1		2		3
ガ+ホシイ		2		3	5
連用形+ソウ		3			3
合計	68	183	157	55	463

以上の表 1 からわかるように、中国語の助動詞としての“想”の文は 463 個あるが、その 463 個の文を日本語に訳すと、162 個の文は対応する日本語の助動詞が使われず、訳文の総数の 1 位となる。その次は 145 個の文は「動詞の連用形+タイ」に訳され、訳文の総数の 2 位となる。その次は 130 個の文が「動詞の未然形+ヨウ」に訳され、訳文の総数の 3 位となる。ツモりに訳された文は 8 個あり、ほかの 18 個の文はテハ、ナイカナ、動詞の基本形+ヨウ、ホシイ、ナケレバ、動詞の連用形+ソウなどに訳されている。

ここから、中国語の助動詞としての“想”は 98%が「動詞の未然形+ヨウ」か、助動詞なしが、「動詞の連用形+タイカ」に訳され、2%がそれ以外のものに訳されるということがわかる。

3.1.1 “想”を日本語に訳すには、スル形（基本形）をとるものが多い

中国語の助動詞の“想”が日本語の願望か、希望を表す助動詞「タイ」と「ヨウ」に訳されるのは予想範囲内であったが、中国語は願望の助動詞を使っているのに、対応する日本語には助動詞が使われていない文が 162 個もあり、総数の 1 位に立つとは、意外であった。次に、なぜ中国語の願望の“想”に対応する日本語の助動詞がないのかについて分析してみる。

- 1) “真对不起，我不想咳嗽了，你们做吧！” 《人到中年》
「すみません。咳は出ません。やってください！」
「すみません。もう出ません。つづけて下さい」
- 2) “经历了几次打击，几番思考，你说你想当一名医生，用自己的双手去帮助人们解除病痛。” 《轮椅上的梦》
「いくつかの打撃を経験して色々考えた末、医者になるって決めたんだね。」

すごいじゃないか!志あれば事ついに成るっていうからな。」

1) のように、「我不想咳嗽了」は、私は「咳するという願望を持っていない」という意味ではなく、むしろ、「咳しない」という話者の「意志の宣言」を表しているのである。2) も同じく、医者になるという願望より、医者になるという意志の宣言が適切である。それゆえ、中国語の“想”は意志の宣言を表す機能がある。

スルは本来意志をあらわす形式ではないが、話し手の未実現の意志的行為に言及する場合に意志の側面が前面に出ることがある。つまり、動詞の基本形は未来に実行しようとする動作も表すことができる。その機能としては、発話現場における宣言という伝達態度を表す「意志の宣言」である。「意志の宣言」は話し手が実行しようと考えている行為を聞き手に一方的に伝達するということを表しており、対話的な環境で使われる。1) と 2) における意志の宣言を表すものとしての“想”は、日本語のスル形と同じく、未来に実行しようとする動作を表し、同じ機能をもっているので、両者はそのまま対訳できる。

3) 总算那前面就是想要去的海滩了。

《轮椅上的梦》

いよいよこの先が目指す海にちがいない。

3) のように、スル形は心中において意志の実行を確認する「決意の確認」を表すことができる。

日本語の「タイ」と同じく、中国語の“想”も“我不想咳嗽了”のように、願望というより、意志を表すことができる。中国語の“想”も、日本語のスル形も未来に実行しようという意志を表すことができるので、中国語の“想”は日本語に訳すと、スル形をとるものが多いわけである。

3.1.2 “想”が「ヨウ」になる場合

調査した 463 個の中国語の文は、145 個の“想”が「基本形+タイ」に訳

され、130 個の文が「未然形＋ヨウ」に訳された。

4) 他想喝茶就往南放车。 《骆驼祥子》

彼は茶を一杯飲んでから南のほうへまわろうと思った。

5) 刚才这个人就是想逃避斗争，才走上了自绝于人民的道路的！《轮椅上的梦》

さっきの人は闘いから逃げようとして、自分から人民と縁を切る道を選んだんだよ！

6) 走以前，我想再给方丹跳个舞，是我刚才躺着编出来的……《轮椅上的梦》

行く前に方丹に踊りを見せてあげようと思って、寝てる間に振り付けを考えて、今できたばかりなんだ……

7) 有几次，她真想不顾一切地冲进去，站在方丹床前，对她说一声：“原谅我！”可是她却无论如何也鼓不起勇气。 《轮椅上的梦》

思い切って中に飛びこみ「ごめんなさい！」と言おうと何度も思ったが、あと一步を踏み切る勇気が出ない。

8) 我想写我的父亲，想了很多年了。 《我的父亲邓小平》

私は父のことを書こうと、長年考えてきた。

4) における「南の方へまわろう」という動作は祥子自身で完結できる動作で、相手の関与が少ない。5) は、「逃げよう」という動作は話し手が自己完結することができ、相手の関与が少ない。同じく、6) の「踊りを見せてあげよう」という動作も、聞き手の関与が少ないといえよう。7) における「言おう」という動作も話し手自身で完結できる動作であり、8) の「父のことを書こう」という行為も作者自身で完結できる行為であるから、動作の遂行に相手の関与が少ないといえる。文4)～8) はみんな話し手の意志決定であり、しかも、話し手自身で行為を完結をさせることができ、聞き手との打ち合わせをするという予定に対する意向を打診することは必要ではない。したがって、行為の遂行には、他者が関与しない場合には、ヨウを用いることができる。

9) 祥子站起来，想再出去走走。 《骆驼祥子》

彼は、つと立って、でてゆこうとした。

- 10) 我急了，张开嘴想喊他回来，可是，一股寒风刚好冲进了我的喉咙，呛得我使劲儿咳嗽起来。 《轮椅上的梦》

あせった私は呼び戻そうとしましたが、口を開けたとたんに冷たい風がのどに吹きこみ、激しくむせかえってしまいました。

- 11) 秦波还想发点议论，焦成思晃了晃自己的手杖拦住她说…… 《人到中年》
秦波が更に何かいおうとするのを、焦成志はステッキを振って押し止め……

9) には祥子は「出てゆく」という行為を願望するだけでなく、「つと立って」という準備する動作があつて、むしろ、「出てゆく」という行為が遂行に移りつつある。10) と 11) も、「呼び戻す」「言う」という動作は主体自身で完結できる行為であり、しかも、そういう行為を願望するだけでなく、行為の遂行に移りつつある。この場合に、ヨウをよく使うのである。

3.1.3 実行しようとした動作が実行しかけた場合

- 12) 看他们笑，自己也想笑，可是笑不出来。 《人到中年》
他の三人が笑うのを見ていっしょに笑おうとしたが、笑えない。

笑うに笑えず、ただじっと彼らの笑うさまを見ていたが。

- 13) 陆文婷想站起来。可是，只觉得双腿发麻，站不起来。 《人到中年》
陸文婷は立ち上がろうとしたが、両方の脚が痺れて立ち上がれない。

陸文婷は立ち上がろうとした。ところが両足が萎えてしまって力はいらない。

- 14) 我一次次扶着桌椅使劲支撑自己，想站起来，但一松手就重重地摔在地上。 《轮椅上的梦》

椅子やテーブルにつかまって立とうとしてみたが、腕の力を少しでもゆるめると、すぐにドシンと床に倒れてしまう。

- 15) 他想排除这种念头，但是，不行。 《人到中年》
そんな考えはよそうと思ったが、やっぱり駄目だった。

誘発説を振り切ろうとしたが駄目だ。

- 16) 她看了看焦成思，竭力想看出这个人是否曾经相识。可是，一点也看不出来了。 《人到中年》

彼女はじっと焦成思を見つめて、この人に見憶えがあるかどうか思い出そうとしてみたが、何ひとつ思い浮かんでくるものはなかった。

彼女は、彼の顔に見覚えがあるかどうか必死に思い出そうとした。しかし全く覚えがない。

12) の「笑おうとしたが、笑えない」における動作「笑う」は結局実現できなかったが、笑うための努力をしたのである。つまり、「笑う」という動作の実行は成功しなかったとしても、成功するための実行は試みた。13) も同じく「立ち上がる」という動作が実現できなかったが、しかし、「立ち上がる」ための努力はもう試みた。14) における「立つ」という動作は、ただの主体の願望ではなく、願望を実現するために、実際に立つことを試してみた。15) と 16) も同じく、ヨウは実行しようとした動作がすでに実行に移った場合に用いられる。

したがって、中国語の“想”は日本語に訳すときに、もし、願望する動作がすでに、実行に移った場合には、「ヨウ」に訳されるが、「タイ」は用いられない。

3.2 「タイ」および各活用形の中国語訳

3.2.1 調査結果

「タイ」の中国語訳を考察するために、「タイ」、「タク」、「タカッ」、「タケレバ」、「タガル」、「タガリ」、「タガッ」、「タガラ」と「タガレバ」の九つの語をそれぞれキーワードにし、『雪国』、『縦社会の人間関係』、『砂の女』、と『ノルウェイの森』の四つの文学作品から検索してみた。九つのキーワードをそれぞれ入力し、検索した文は 937 個あり、そのなかで助動詞の「タイ」、「タガル」および各活用を用いた文は 467 個ある。467 個の文の中国語訳は次の表 2 の通りである。

表 2

	縦社会の人間関係	砂の女	雪国	ノルウェイの森	総計
対応する助動詞なし	5	12	21	63	101
想	4	26	42	193	265
要	2	1	2	19	24
愿（意）		1	4	27	32
盼望、渴望		2		3	5
希望、但愿		1	6	5	12
（恨不）得		2	2	11	15
打算			2	3	5
应该，该		1			1
想要				3	3
会	1				1
懒得				3	3
合計	12	46	79	330	467

日本語のタイ文 467 の中、265 個（56%）のは中国語の“想”に訳され、総数の 1 位に立つ。その次は対応する願望助動詞がないものが、101 個あり、総数の 2 位に立つ。“愿意”に訳された文は 32 あり、総数の 3 位に立つ。“要”に訳された文は 24 個あり、総数の 4 位に立つ。残りの 45 文（10%）が“恨不得”“希望”“但愿”“盼望”“渴望”“打算”“懒得”“想要”“应该”“会”などに訳される。

3. 2. 2 願望助動詞を使わない「タイ」の中国語訳の分析

3. 2. 2. 1 タイが“要”になる場合

調査結果では、タイ文は総計 467 個あり、その中に、“想”と訳された文は 265 個あるが、“要”と訳された文は 24 個しかない。つまり、“要”と訳

される文は5%に過ぎない。

中国語では“想”も“要”も希望か願望の意を表すことができる。したがって、日本語のタイは中国語の“想”にも“要”にも訳される。では、どの場合に“要”になるか。

- 17) 水を飲んで少しすると小便をしたいと言ったので、僕はベッドの下から
しびんを出し……… 『ノルウェイの森』
喝罢水说要小便，我从床下拿出尿壶………

17) の「小便をしたい」におけるタイは小便することを希望するというより、決意するという意志表示である。中国語の願望助動詞としての“要”は、当該行為が既定のもの、しかも遂行可能なものとして、自らの強固な意志を表すという意志表示である。もちろん、“要”は強い意志表示のほかに、「必要」（路上要小心／道中に注意しなければならない）と「可能性がある」（看样子要下雨了／どうも雨になりそうだ）などの意味もある。

日本語の「タイ」も願望の意を表すほかに、意志表示の機能がある。17) のように、タイは意志表示であるから、中国語の意志表示“要”に訳される。

したがって、日本語の「タイ」は強固な意志表示を表す場合、しかも、近接未来に実行しようとする行為が確実に遂行可能な場合に、中国語の“要”と訳される。

- 18) 「それはなあ、わしだって金さえあれば、買っておきたいさ」思わず本音がでた。 『骆驼祥子』

“小伙子，我要是钱富裕的话，真想留下！”老者说了实话。

18) のように、「買っておきたい」ということは老人にとっては不可能なことであり、中国語訳に“要”を使うとおかしくなってしまう。

日本語のタイは願望表示である場合、特に、願望する行為が実行できるかどうかとも確認できない場合、もしくは実行できない場合には、中国語の“想”

と訳される。18) におけるタイは中国語の“想”に訳された。これは老人が自分の意向を告げるだけで、祥子に受け入れさせようとはしないからである。

日本語の「タイ」文は、もし、「タイ」が意志表示であり、しかも、意向する行為が遂行可能な場合に、中国語の“要”と訳される。また、“想”と“要”の使い分けは自らの意向をどのように聞き手に認識させるのかによって決定される。みずからの意向を告知するだけの場合には、“想”の形が用いやすく、それを聞き手に受け入れさせようとする場合には、“要”の形が用いやすくなる。

日本語の「タイ」とヨウの使い分けは運用上の対人的配慮によって左右される。つまり、対人的配慮が優先される。一方、中国語の“想”と“要”は強い意志であり、および遂行可能であるかどうかによって決定される。また、中国語の“要”は自らの意向を聞き手に告知するだけでなく、自分の意向を聞き手に受け入れさせようとする。つまり、対人的配慮が優先されるべき要因であるか否かの違いで、日中両語の相違が見られる。

また、「タイ」と「ヨウ」は主体が実行に移りつつあるかどうかによって、使い分けられているが、“想”と“要”はそのような違いがなく、強い意志で、遂行可能であるかどうかによって使い分けられている。

また、調査結果では、「タイ」の否定形「たくない」・「たくなかった」の中国語訳には、“不要”となるものはない。これは中国語の“不要”は願望の意を否定するのではなくて、“不要”は話者自身に用いると、強い決心を表し（我不要说话）、他人に用いると、命令、制止あるいは不実行の勧告を表すからである（吃饭的时候不要说话）。しかし、日本語の「タクない」には命令、制止の意味がない。

4 終わりに

4.1 “想”の日本語訳のまとめ

(1)中国語助動詞としての“想”は「動詞連用形+タイ」という構文に訳されるのが一番多いのではないかと予想したが、調査結果は予想外だった。“想”の日本語訳は総数から言うと、1位は願望助動詞を使わない文であり、2位

は「動詞連用形＋タイ」という構文であり、3 位は「動詞未然形＋ヨウ」という構文であるという順序になっている。

(2)中国語の“想”が願望の意というより、「意志の宣言」という伝達態度を表す場合に、日本語訳はスル形をとるものが多い。

(3)中国語の願望助動詞“想”の日本語訳は、願望する行為の実行には、他者が深く関与する場合には、タイを用い、願望する行為の実行に、他者が関与しない場合には、「タイ」も「ヨウ」も使うことができる。また、他者が関与しない場合には、自己完結できる当該行為が遂行に移りつつあるかどうかによって使い分けている。ヨウは自己完結できる当該行為が遂行に移りつつあるが、タイは当該行為が遂行に移りつつあるとは言えず、もしくは実行できるかどうかもわからなくて、できない場合も多いというときに用いる。

(4)中国語の“想”が実行しようとした動作がすでに、実行に移った場合には「ヨウ」と訳されるのが一般的であり、タイはその用法がない。

4.2「タイ」の中国語訳のまとめ

(1)日本語の願望助動詞タイは“想”に訳されるのが一番多いのではないかと予想したが、調査結果は予想範囲内だった。「動詞連用形＋タイ」の中国語訳は総数から言うと、1 位は“想”であり、2 位は願望助動詞を使わない文であり、3 位は“愿意”であり、4 位は“要”であるといった順序になっている。

(2)日本語の「タイ」文は、「タイ」は強固な意志表示である上に、意志する行為が遂行可能な場合に、中国語の“要”と訳される。また、“想”と“要”の使い分けは自らの意向をどのように聞き手に認識させるのかによって決定される。みずからの意向を告知するだけの場合には、“想”の形が用いやすく、それを聞き手に受け入れさせようとする場合には、“要”の形が用いやすくなる。

(3)日本語の「タイ」と「ヨウ」の使い分けは運用上の対人的配慮によって、左右される。つまり、対人的配慮が優先される。一方、中国語の“想”と“要”は強い意志であり、および遂行可能であるかどうかによって決定される。つま

り、对人的配慮が優先されるべき要因であるか否かの違いで、中日両語の相違が見られる。

(4)調査結果によると、「タイ」の肯定文は中国語の“要”に訳すことができるが、否定形の「たくない・たくなかった」は、“不要”と訳されたものはない。これは中国語の“不要”は願望の意を否定するのではなく、“不要”は話者自身に用いると、強い決意を表し、他人に用いると、命令、制止あるいは不実行の勧告を表すが、「タクナイ」は命令、制止の意味がないからである。

4.3 日本語教育への示唆

以上の研究結果から日本語教育に対して2点示唆することができる。

(1)中国語の助動詞“想”の日本語訳には、動詞基本形をとるものが多いという結論から、日本語教育、及び翻訳につぎのような示唆をすることができる。中国語の“想”は必ずしも日本語のタイかヨウに訳すとは限らず、動詞の基本形も未来を表すことができるので、動詞の基本形に訳されることも多い。“想”はタイかヨウに訳されると、かえって煩わしく身を引くような不自然な日本語になってしまう場合も多いから、この点を日本語教育の現場に学生に認識させる必要があると思う。また、日本語のタイも必ず中国語の“想”に訳されるのではなく、文脈によりながら、自然な中国語に訳すほうがいいと思う。タイは直接に中国語の“想”に訳すと、不自然な文になる場合が多い。たとえば：「あなたが真剣に直子を回復させたいと望んでいるなら、そうしなさい。」(『ノルウェイの森』)という文は日本学研究センターの対訳コーパスには“如果你诚心诚意地想使直子康复，就那样做好了。”というように訳されているが、どうも不自然な中国語のような気がする。仮に“想使”を“希望”に変えれば、自然な中国語になると思う。

(2)願望疑問文「シタイカ」は『標準日本語』の教科書には他人に願望を聞くときに用いられると述べてあるが、しかし、本研究の研究結果によると、中国語の“想”の願望疑問文は「タイカ」と訳された文が少なく、つまり、「シタイカ」は中国語の“想”ほど多く使われていないということがわかる。

これは、日本語の「シタイか」は運用的使用条件があるためである。条件は話し手・聞き手が敬語を使う必要のない親しい関係であり、また、聞き手に願望があるということが明白で、かつ、拒否されないだろうという話し手と聞き手の共通認識があり、「はい、したい」という肯定の返答が前提となっているということである。

しかし、日本語の教科書にはこのような使用の条件を提示したものはまだ見られないようである。それゆえ、日本語学習者が日本人らしく適切に日本語を駆使するためには、日本語学習者に日本語の文法を教えるだけでなく、文法以外の運用的条件と使用実況も提示しなければならないと思う。

4.4 今後の課題

本研究では北京日本学研究中心が開発した「中日対訳コーパス」を利用し、日本語の願望助動詞タイと中国語の“想”の使用実態を考察したが、しかし、使用した資料はコーパスの一部分でしかなかった。また、“想”と密接に関係する“要”の日本語訳はまだ詳しく考察していない。中国語の意志表示の“要”と日本語の意志表示の「スル形」、および「動詞の未然形＋ヨウ」との対応関係も明らかにしていない。それらを今後の課題としたい。

<参考文献>

相原茂 (1988) 『現代中国語文法総覧』 くろしお出版

庵功雄 (1995) 「ガ～シタイとヲ～シタイー格表示のゆれに関する一考察」
『日本語教育』

庵功雄等 (2001) 『日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク

大修館書店 (1987) 『中日大辞典』

川瀬生郎 (1984) 『日本語教育と助詞（五助動詞の扱い方）』 明治書院

佐藤宣男 (1991) 「助動詞『たし』の用法 文論の視点から」 『文章研究の新視点』 明治書院

杉村博文・木村英樹訳 (1995) 『文法講義—朱徳熙教授の中国語文法要説』

白帝社

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版

藤堂明保・相原茂著（1985）『新訂中国語概論』大修館書店

松村明（1991）『日本文法大辞典』明治書院

日本記述文法研究会（2002）『新日本語文法選書 4 モダリティ』くろしお出版

吉川武時（1989）『日本語文法入門：希望の表現タイ』アルク出版

孫満緒（2003）『日語語法表現弁析』上海世界図書出版公司

徐愛紅（2001）「希望表明形式による意志表示—日中両語を対照して—」『日本語教育』109号

（西安交通大学外国語学院教授）

（西北工業大学外国語学部講師）